

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに		
所在地	〒025-0244 岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	令和7年11月15日	評価結果市町村受理日	令和8年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田畑に囲まれた自然あふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており、24時間連絡が取れ、日常的にバックアップ体制が取れている。職員の配置替えや利用者の入れ替えによる人的環境の変化があるが、利用者同士の交流や家族との交流を通し、利用者の出来る日常生活を通して施設に馴染んでいただき、その人らしく生活できるよう支援している。体操や散歩で体を動かし日中の活動を行う事で、夜間の安眠を促している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や林に囲まれた緑豊かな自然に恵まれた環境に立地する開所19年目の事業所である。周辺には温泉や自然休養村、コンビニ、住宅が点在している。同一敷地内に、特別養護老人ホームや居宅支援事業所など多くの介護事業所があり、消防訓練の共同開催や看護師の支援など、連携を図りながら効果的な運営をしている。法人が定めた運営理念・基本的理念を職員で共有し、家庭的な雰囲気のもと利用者一人ひとりの個性・特性を尊重し、利用者に寄り添ったきめ細かな介護サービスを提供している。広報紙や随時のお便りで利用者の様子を家族に届け、面会や毎年実施している家族アンケート等により家族の要望等を受け止め運営に活かしている。運営推進会議での助言・提言を受け、感染症対策、防災訓練、ボランティア受け入れなど運営に反映させている。経験豊かで専門性に富む職員が殆どで、人数面の課題はあるものの利用者や家族から信頼されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会〕

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「住み慣れた地域で尊厳ある人生をその人らしく豊かに安心して暮らせる場所」を運営理念とし、ホールなど目につく所に張り出している。いつも職員で意識しあいながら、安心して暮らせる場、自分らしくふるまえる場、あるがままの状態を受け入れ、生活史の中に手がかりを得て、適切に対応している。	運営理念と基本的理念を掲示すると共に、会議等で確認し職員間で共有している。家庭的な雰囲気のもと、一人ひとりの個性を大切に利用者の意向に添ったきめ細かな介護サービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域協力の防災訓練、花壇作りなどを通じて、交流を図っている。	志戸平町内会に加入し、自主防災組織「志戸平防災会」の支援やボランティア団体「花と緑の会」からは花壇を整備していただいている。また、お祭りの際には地域の御輿が訪問している。	コロナ禍以前は、小学校に出向き行事を見学したり、中学校の実習を受け入れていたが、現在は、コロナ感染防止のため中断している。感染防止に十分留意したうえで、小学生や中学生との交流再開に向けた検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話及び入居申し込みの来訪者の相談や認知症対応への家族やケアマネジャーの問い合わせに答えている。施設見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月ごとの会議を開催している。利用者の生活状況の報告やヒヤリハット、事故報告などテーマを決めて意見や助言などいただき、職員へ周知している。	委員は民生委員や行政、地域包括支援センター、家族、利用者代表で構成され、利用者の生活状況や行事などの報告をしている。コロナ対策や防災訓練、ボランティアの受け入れなど、委員からの助言、提言を受け、業務運営や施設の充実などに反映させている。なお、委員は防災訓練へも参加している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通じて、取り組み内容を伝えたり、市の介護保険の動向や情報を知らせていただいている。また、地域包括支援センター職員との連携協力を取っている。	運営推進会議委員の市長寿福祉課や地域包括支援センターの職員からは、会議以外でもメール等で様々な情報や助言、指導をいただいている。市主催の説明会や研修会に、職員を派遣している。併設の居宅介護支援事業所が窓口となって、地域包括支援センターと連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通じて、拘束を行わないケアに取り組んでいる。外に出たい利用者には見守りしながら付き添いをしている。	法人本部の身体拘束廃止委員会に管理者が出席するほか、同一敷地内に併設の事業所職員による会議や研修会を開催して職員に趣旨の徹底を図っている。身体拘束の事例は無く、スピーチロックはその都度注意している。転倒防止用としセンターマットを1名が利用している。	同一敷地内に併設される事業所を「グループ」としているのか不明。原文は「グループ内の職員」
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を通じて、ケアの中で、虐待につながることはないか注意しあい、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	様々な回覧される資料を確認し、制度を学んいただき、利用者や家族に必要時活用できるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者家族に重要事項説明書を提示し、疑問手を聞き、その都度必要な説明を行っている。制度改正等による内容変更の都度、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関口に意見箱を設置している。年に一回家族アンケートを記入していただいたり、面会時にも家族の意向を確認し、職員で話し合い支援に繋げている。	家族へは年4回発行の機関誌の他、随時利用者の状況をお知らせしている。家族の要望等は面会時や家族アンケートを通じて把握し、日々の介護サービスに活かし、通路の整備、電話対応などに関する提案、意見も事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日のミーティングや記録等の時間に職員間で話し合いを持ち、改善案を考えサービスの向上に繋げている。	毎月の職員会議のほか、ミーティングや連絡ノートにより職員の提案等を把握し業務に活かしている。職員による利用者への整髪は家族に喜ばれている。子育て中の職員の夜間勤務変更など、職員の要望に対応して働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりに日々の業務に対して、意見や不安等を十分に聞き、話し合いながら、業務に取り組んでいる。また、精神的ストレスを溜め込まないよう職員間で相談し、良いチーム環境作りに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に参加した場合は、内部研修で伝達し、情報を共有し一人ひとりがスキルアップするように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修などを通じて、他施設の良いところを知り、自施設のケアに反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面接で本人及び家族から困っている事や要望を聞き取ると共に、本人の表情、行動等から困っている事や不安な事をいち早く察知し、安心できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込み時の家族からの相談内容を再度事前の面接で聞き取りし、本人の状況と家族の不安や要望を確認し、利用者の受け入れ態勢を整え、信頼作りに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅での様子を聞き、本人と家族の実情を把握し、必要に応じてすぐ対応できるように他の介護サービス等をお知らせしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設内で同じ時間を過ごしていく中で、出来ることを一緒にやっていただいたり、人生の先輩として尊敬を持ち、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時に現在の様子を伝えたり、自宅での以前の様子や思い出を聞き、情報を共有し支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	普段の会話に本人の家族の名前や地名を話題にしている。家族の協力で毎月通院したり、自宅への外出を勧めている。	入居前のアセスメントや家族からの情報で、馴染みの人や場について把握している。家族や親戚、知人が来所し面会がある。知人や友人、親戚の来所があるほか、家族と外出、外泊し、墓参や正月祝いに帰宅して買物、外食をしてくる利用者もいる。市の敬老会への出席はないが、家族を通じ記念品が届いている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングで利用者同士が馴染みになるように同じ席に座っていただいたり、コミュニケーションを取りやすい環境作りに努めている。一緒にレクリエーションをしたり、DVDの活用や歌を唄う等共通の活動を行い、楽しんでいただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養に移った利用者の情報提供や行事の際の面会、グループホームでの生活の様子の伝達を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人から希望を聞いたり、日常の会話や行動または表情から思いを汲み取り、対応を職員で話し合い、統一した支援に努めている。	利用者全員が意思表示が可能で、好みや希望を話しており、利用者の希望で趣味の画材を入手している。自宅にある写真や趣味の壺などを持ち込みたいとの希望もある。家族が持参した利用者用の預かり品は、ノートに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の面会時に昔のことを尋ねたり、写真や馴染みの物を持ってきていただき自室に置いている。また、本人との会話から昔のことを聞き出し、好みの把握に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の流れや変化を、ケース記録や申し送り等で把握し、職員間で共通の対応が出来るように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の要望や生活の意向を聞き、職員で検討し、ケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、次のプランに反映させている。	資料の突合せをしながら、職員が話し合っカンフレンスを実施している。それに先立つモニタリングは、日中、夜間の状況に応じて、職員と意見交換し実施している。ケアマネジャーが先制した計画案を家族に郵送したうえで、管理者が家族の了承を得て、家族来所時に関係書類を整備している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録、介護日誌、連絡ノート、医療ノート等で確認し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望により、外出を勧めている。物品購入の代行、通院の付き添いや送迎は、家族の状況に応じて支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地元の方々の協力による防災訓練や花壇整備を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医へ家族と通院の際、本人の様子を情報提供書として提出している。他科受診時も受診内容の伝達を行っている。	家族が同行して入居前のかかりつけ医を受診しており、緊急時や家族から要請がある場合は、職員が代わっている。眼科や皮膚科等の専門科も同様である。歯科検診や義歯調整などは訪問歯科診療を受診している。予防接種は協力医が来所し対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	母体の特養の医務室看護師に、緊急時は相談し助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に入院先への情報提供、入院中の家族との連携による退院後の支援を行っている。必要時応じて入退院の送迎も行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に家族に重度化後の対応について確認している。母体の特養への入居希望が多いので担当職員と連携を取り、情報提供している。終末期への対応についても、チームで支援できるように配慮している。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合には、改めて家族の意向を確認し、隣接する特養への入所や、他の医療機関等への入院としている。終末期のケアサービスについては、特養の看護師から助言・指導を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	母体特養の看護師による学習会で、知識、実践力を身に付け、職員間で様々な情報を共有しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練(火災、土砂災害等)を様々な想定の下で実施している。訓練内容によって行政区や母体特養の職員の協力を得ている。毎月防火安全対策DVDを観て防災意識を持っていたい	敷地の一部がハザードマップ上、浸水区域に指定されている。火災の総合訓練を実施し、また、薄暮時に消防署、志戸平自主防災会、特養の支援、協力を得て、夜間想定訓練を実施している。月1回防災の日DVDを視聴している。当面の食材は3日分確保している。なお、法人として、災害時、地域住民の施設への避難を想定し、食料、水などを確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に人生の先輩と意識し、尊敬の心を持って言葉使いや接し方に配慮し、一人ひとりの目線に合わせ寄り添って支援させていただいている。認知症やコミュニケーションの研修を行い、プライバシー保護について確認している。	広報紙への写真掲載については、家族の同意を得ている。親しい中にも礼節を忘れず、利用者と目線の高さで話しかけ、名前は「さん」づけとしている。居室へ入室する際には、ノック、声掛けを励行している。入浴介助、トイレ介助では、利用者の羞恥心に配慮している。異性介助は、特に問題はない。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中で表情や行動等で本人の思いを汲み取り、本人が選べるように分かりやすい説明を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のその日の体調や気分で、ソファや畳で過ごしていただいたり、自室で過ごす事を選んでいただくなど、本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	職員が本人の希望を聞き理髪を行っている。また季節に合わせて本人の好みの服装を用意し選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	キッチン前に手作りの献立表を張り出し、毎日の献立がわかるようにしている。本人の嗜好を確認したり、テーブル拭きなど本人ができる事を行っていただいている。誕生会、バイキングなどいろいろなバリエーションを考えている。	職員が特養のメニューを参考に、利用者の好みを聞きながらメニューを作成し、調理している。食材は、野菜、魚、肉、冷凍食品がそれぞれの事業者から配送されている。月1回のバイキングは、利用者と職員と一緒に食事をし、誕生会、敬老会、新年、忘年会などの行事では、利用者の要望に沿って刺身、赤飯、ノンアルコール飲料などを提供している。10時、15時のおやつは、家族の差し入れや、手作り、既製品などのお菓子としている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム おおたに

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の食べやすい食事形態や軽い食器を使用したり、水分摂取チェック表で摂取量を確認し、不足ないように水分摂取を勧めている。毎月の体重測定や、カロリー摂取の調整など確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	年一回の歯科検診の実施と、毎食後の歯磨きの徹底、義歯洗浄、口腔内の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	水分、排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。個々の排泄時の後始末の状態に合わせて本人のできないところを支援している。尿意の訴えのない人は、本人の行動を見て誘導し排泄に繋げている。	利用者全員が、尿意便意を自覚しトイレで排泄している。排泄チェック表には、利用者の行動や聴き取り(居室トイレ使用)なども記録している。布パンツ使用は2名、他はリハビリパンツで5名はパット併用である。転倒防止のため、1名がコールマットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝のミーティングや排便チェック表で排泄状況の確認を行い、便秘の人は朝に水や乳酸菌飲料等で排便を促したり、医師と相談して下剤の調整、体操や散歩を取り入れ便秘を予防している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者の認知症状やペースに合わせて入浴順番を調整しゆっくり入浴していただくよう支援している。	週2、3回、午前や午後、希望に応じ夕方に入浴している。入浴後にクリームやローション、保湿剤を塗っている。入浴時は職員と1対1で貴重なコミュニケーションの場となっている。利用者全員が入浴を楽しみにし、入浴を拒否する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食事後、自室やソファで休んでいただくことが習慣となっている。日中の体操や日光浴等で夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1日3回個々に薬箱に分け、配薬準備は職員2人で確認、投与者は服薬時再確認して誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体操や日光浴、季節の歌を唄いレクリエーションで楽しんでいる。進んで掃除や洗濯たたみなど行い張り合いを持っていただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節を感じていただけるよう、バスハイクで出かけたり、外を散歩したり、また家族の協力で、通院時など利用し、本人の希望の場所に行っている。	穏やかな日には、敷地内を散歩したりウッドデッキでおやつを食べ、日光を浴びながら外気浴を楽しんでいる。プランター、花壇への水遣り、草取りをしている。ドライブで、全員がマイクロバスに乗り込み、花見、紅葉狩りに出かけている。家族と外出、外泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在お金を所持されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次いだり、電話をかけたいという希望があるときは、本人から職員が支援をかけている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールも広く障害物がないようにしている。ウッドデッキに出て花壇の花をみていただいたり、ホールには季節に合わせて飾りつけを行っている。	天窓と大型の引き戸から光が入り、明るく広々としたロビーには、食用テーブル、ソファ、小上がり(こたつ)があり、利用者は、思い思いの場所で、テレビやゲームなどでくつろいでいる。温度や空調は、エアコン、パネルヒーター、加湿器で管理されている。クリスマスツリーが飾られているほか、壁は、モールや利用者の作品などが貼付されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや座敷の入り口に腰掛けたり、ホールの自分の席等好きなところに座っていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の協力で本人の使い慣れたぬいぐるみを置いたり、写真入りの誕生カードを飾ったり、部屋の入り口にも希望があれば、写真を飾って自室と認識していただけるように工夫している。	ベッド、洗面台、押入れがあり、2室にはトイレがある。家族写真やぬいぐるみ、時計、イスなどが持ち込まれ、壁には作品が貼付されている。温度はパネルヒーターで管理されている。ベッドは、利用者の意向に沿って配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室の名札を大きめに作ったり、浴室の暖簾やトイレの位置が分かりやすいように、大きな文字で表示している。自室のベッドの位置も一人ひとりの状態に合わせ、本人が安全に移動しやすいように配置している。		